

2010年度3Q決算の概要

2011年2月4日
住友金属工業株式会社

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

本資料には、新日本製鐵株式会社および住友金属工業株式会社間の経営統合の成否およびその結果にかかる「将来予想に関する記述」に該当する情報が記載されています。本資料における記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、かかる将来予想に関する記述に該当します。これら将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた両社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しています。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する記述に明示的または黙示的に示される両社または両社のうちいずれか一社（または統合後のグループ）の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。両社は、本資料の日付後において、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。投資家の皆様におかれましては、今後の日本国内における公表および米国証券取引委員会への届出において両社（または統合後のグループ）の行う開示をご参照ください。

なお、上記のリスク、不確実性およびその他の要因の例としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) 日本国内外の経済情勢。
- (2) 鋼材需給、原材料価格、為替相場の変動。
- (3) 借入金、社債等の金利の変動、その他金融市場の変動。
- (4) 有価証券等の保有資産（年金資産を含む）価値の変動。
- (5) 事業活動にかかる法令その他規制（環境規制を含む）の変更。
- (6) 海外の主要市場における関税引き上げ、輸入規制等。
- (7) 災害、事故等に起因する事業活動の停止、制約等。
- (8) 経営統合の詳細について当事者すべてが満足する合意に至ることができないことその他本件取引が実施できないこと。
- (9) 統合後のグループにおいてシナジーや統合効果の実現に困難が伴うこと。

なお、本資料中、「粗鋼生産量」「鋼材販売量」「鋼材平均価格」と記載しているものは、(株)住友金属小倉、(株)住友金属直江津、(株)住金鋼鉄和歌山を含んだ数値となっております。

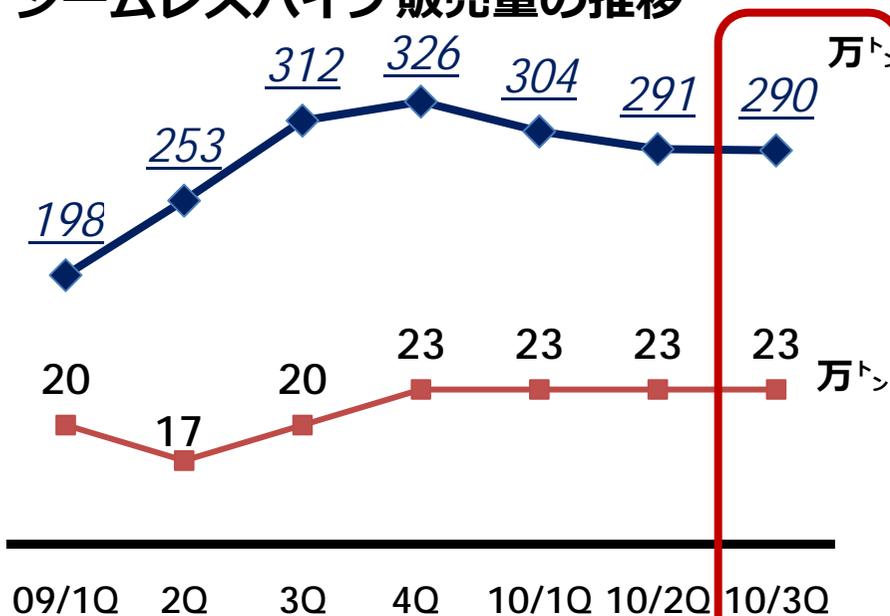
本資料中のEBITDAは、営業利益+減価償却費（有形）で算定しております。

10年度3Q決算ハイライト

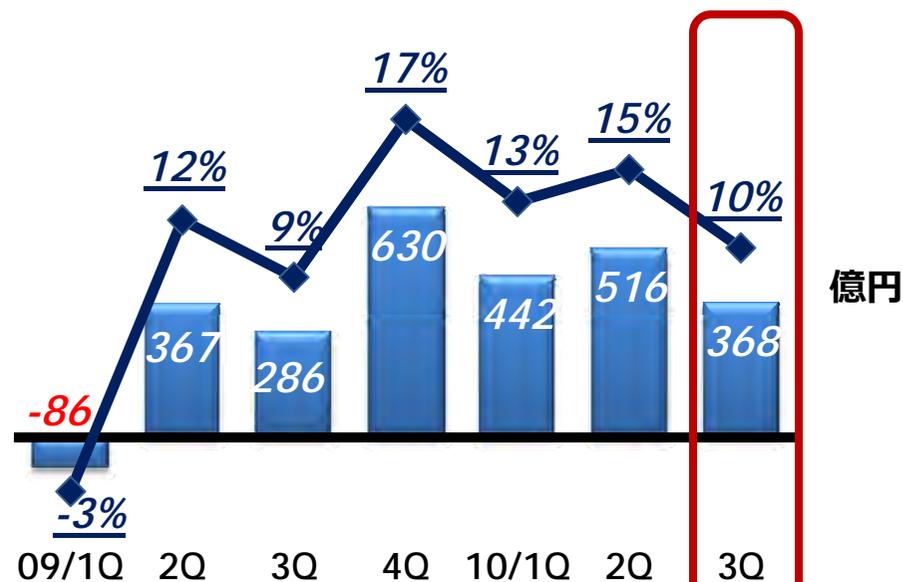
	3Q累計	(前年同期比)
● 売上高	10,457億円	(1,209億円)
● 営業利益	397億円	(709億円)
● 経常利益	268億円	(855億円)
● 当期利益	349億円	(924億円)
● EBITDA	1,327億円	(758億円)

- 鹿島高炉不調・販売環境悪化により鋼材販売量は前回見通しから減少（高炉は12月末に正常操業に復帰）
- 上記不調影響に加え、持分法損益の減少もあり、10/3Q経常利益は△20億円の赤字

全社販売量と
シームレスパイプ販売量の推移



四半期別EBITDAと
EBITDAマージン推移



10年度通期業績見通し

- 通期営業利益見通しは、高炉不調による減産影響、販売環境の悪化、豪州大雨影響による原料炭コスト上昇等により、250億円の下方修正
- 通期経常利益見通しは、これに加えてSUMCOの業績下方修正等により、400億円の下方修正

	前回 見通し	今回 見通し	増減
販売量 (万ト)	1,264	1,207	△57
営業利益 (億円)	800	550	△250
経常利益 (億円)	700	300	△400
当期利益 (億円)	600	250	△350

営業利益減△250億円の内訳

・ キャリオーバー	40億円
・ 販売構成他	10億円
・ 高炉不調	△170億円
・ 販売数量	△40億円
・ 原材料価格	△50億円
・ 低価法	△20億円
・ 評価損益	△20億円

* 当期利益見通しには法人税率改正の影響(△50億円)を織込み

高炉不調の影響

販売量減 (△40万ト)	△100億円
コスト悪化等	△70億円
鹿島高炉不調影響計	△170億円
3Q影響	△150億円
4Q影響	△20億円

新日本製鐵株式会社との経営統合に向けた検討の開始について

- 両社の経営資源を結集し、得意領域の融合と相乗効果を創出
- グローバル戦略を加速すると共に、技術・品質・コストなどの面で世界最高の競争力を実現
- 世界トップクラスの総合鉄鋼メーカーに発展することを目指す

グローバル戦略の推進・加速化

世界最高の技術先進性の発揮

企業価値の最大化

グローバル競争に耐えうる
コスト競争力の構築

製鉄以外の分野での事業基盤の強化

1. 統合の形態

合併による統合

2. スケジュール

- ・ 2011年 2月3日 経営統合検討に関する覚書締結
- ・ 2012年10月1日（予定）合併期日（事業統合期日）

3. 統合会社の名称、本店所在地、代表者、役員構成等

今後、両社協議の上で決定

4. 経営統合比率

外部機関の評価を踏まえ、両社協議の上で決定

5. 統合検討の推進体制

両社社長を共同委員長とする「統合検討委員会」を設置し、検討を開始

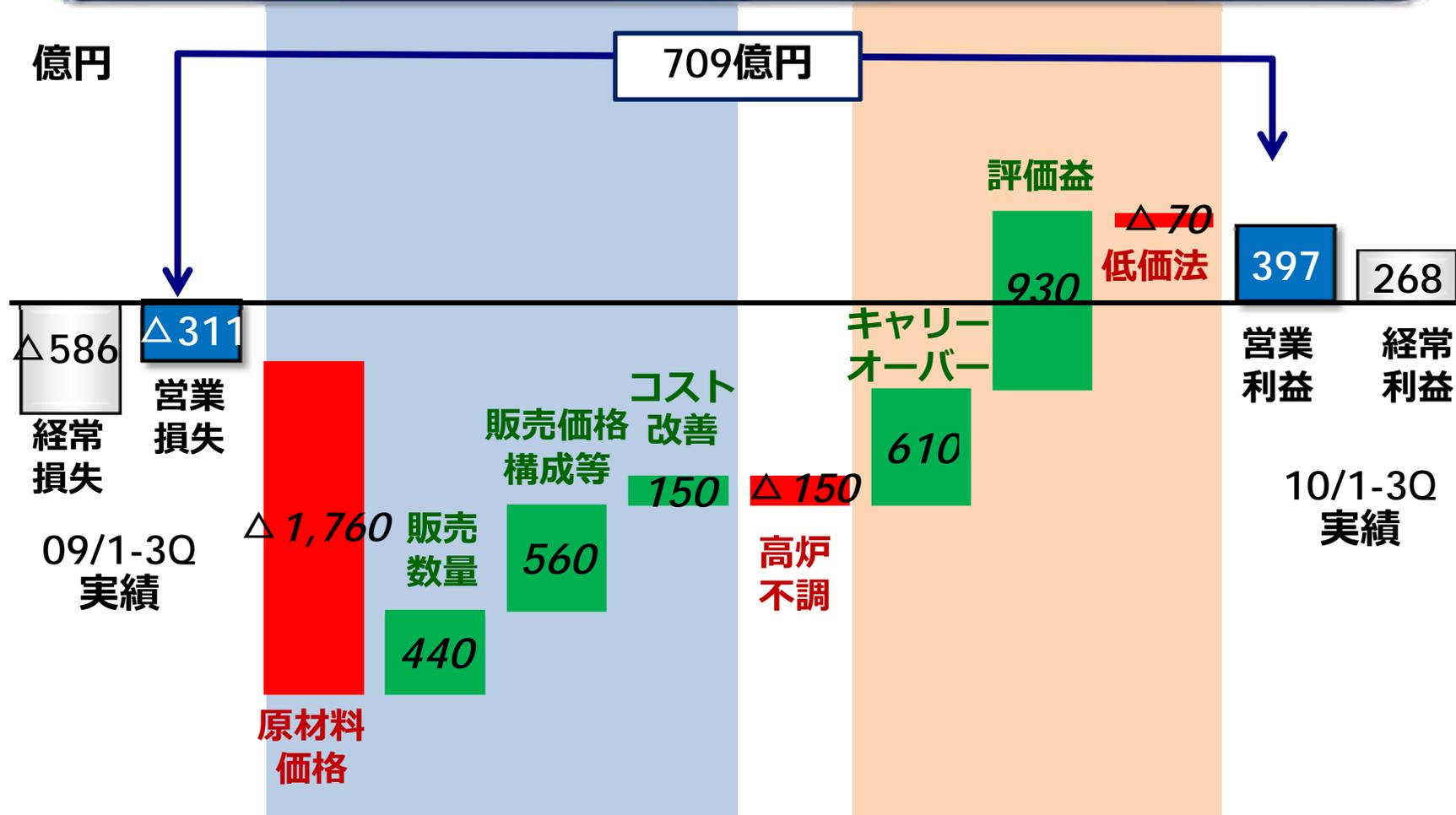
2010年度3Q決算実績

10年度第3四半期決算概要

億円								増減	
	3Q	09/ 1-3Q	1Q	2Q	3Q	10/ 1-3Q	10/3Q 前Q比	10/1-3Q 前年同期比	
売上高	3,260	9,247	3,416	3,521	3,519	10,457	259	1,209	
営業利益	△31	△311	142	204	49	397	81	709	
経常利益	△110	△586	94	194	△20	268	89	855	
特別損益	-	△31	-	-	-	-	-	31	
法人税等 少数株主損益	2	43	△50	109	21	80	18	37	
当期純利益	△107	△574	44	304	0	349	108	924	
1株当り 純利益(円)	△2.33	△12.40	0.97	6.56	0.01	7.53	2.34	19.93	
EBITDA	286	568	442	516	368	1,327	82	758	
為替レ-ト (円/\$)	90	94	92	86	83	87	7円高	7円高	

営業利益増減 (09/1-3Q→10/1-3Q)

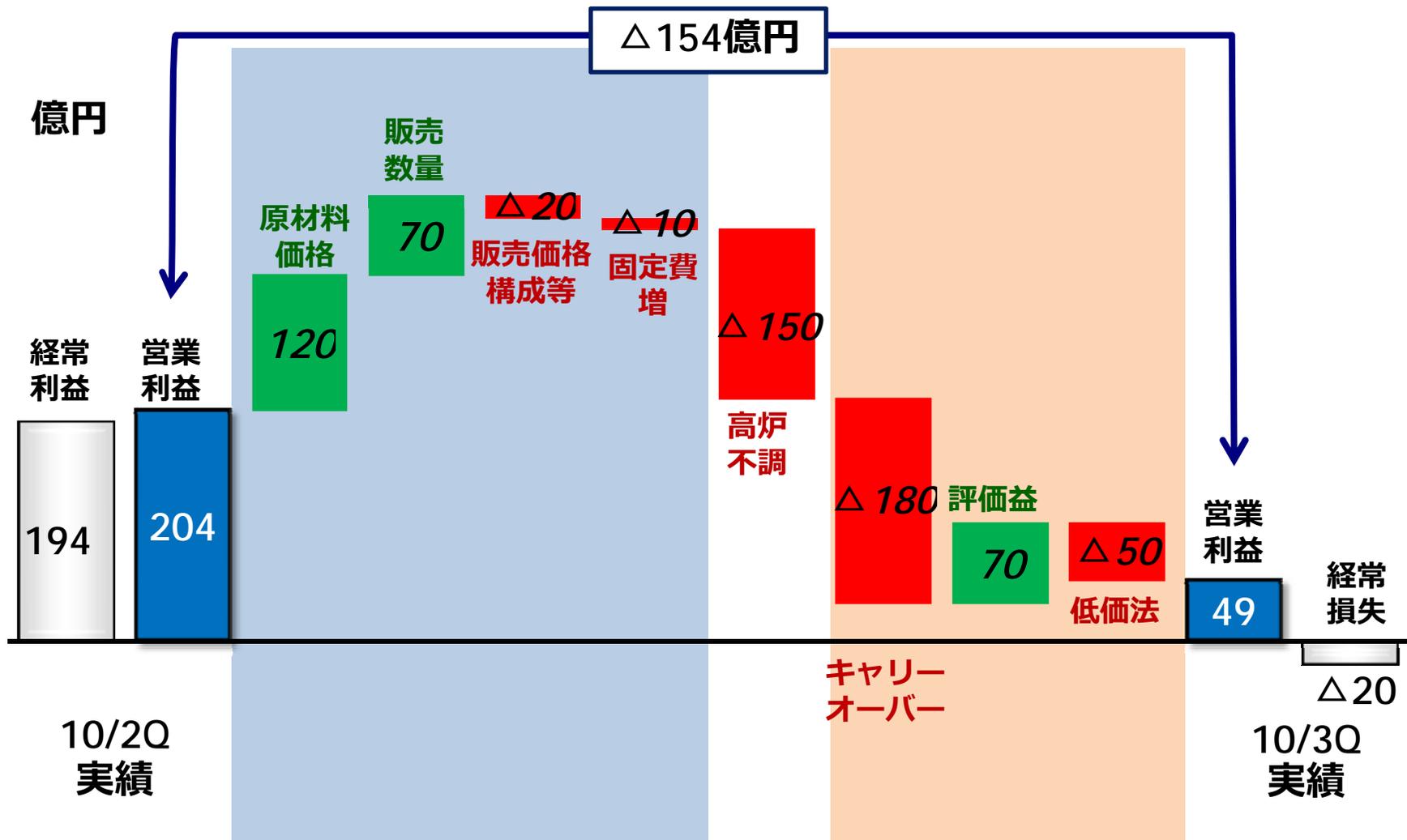
高炉不調影響はあるものの、販売数量の増加・コスト改善や販売価格改善に加え、評価益やキャリーオーバー等の一過性要因もあり、709億円の営業利益好転



●持分法損益 <09/1-3Q> △160億円 → <10/1-3Q> 33億円

営業利益増減 (10/2Q→10/3Q)

汎用品市況悪化に加え、高炉不調の影響が大きく営業利益は後退



●持分法損益 <10/2Q> 43億円 → <10/3Q> △22億円

10/12E BS概況

10

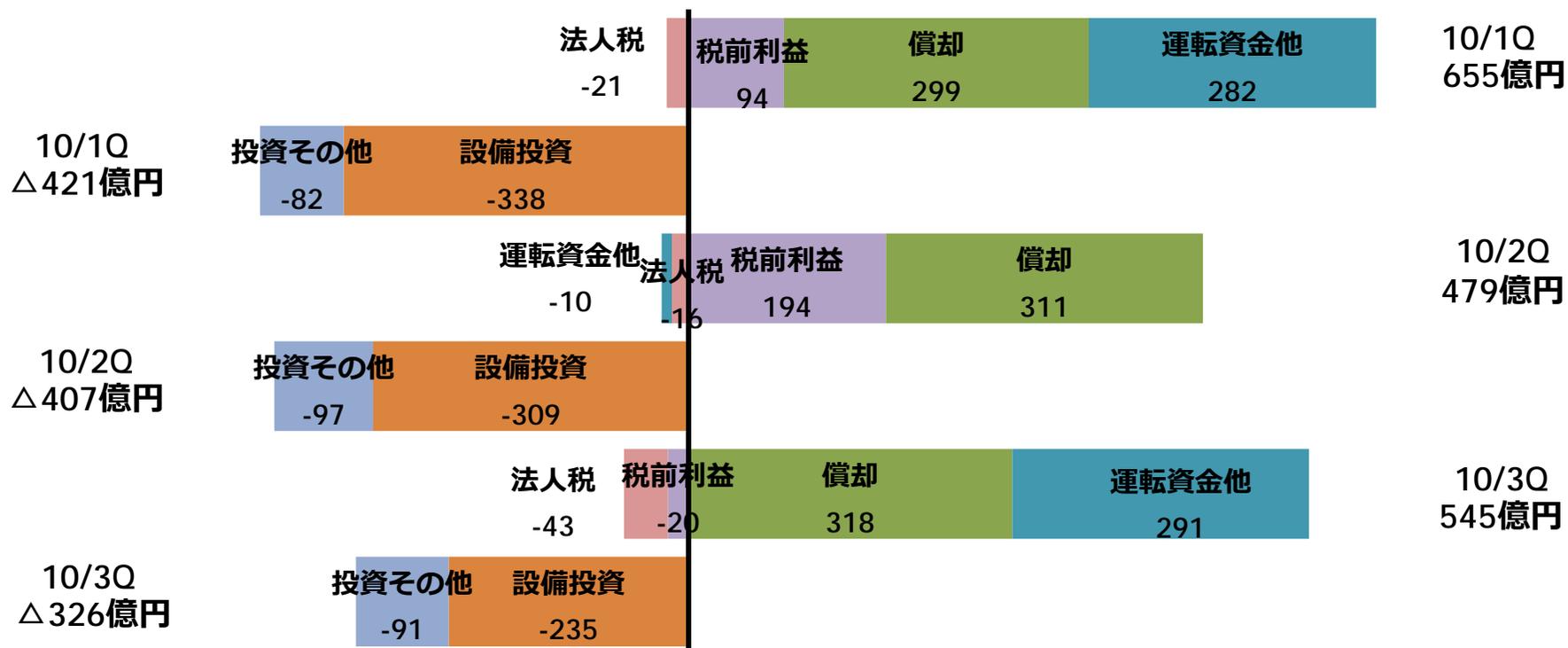
- 償却進行等により借入金は減少
- D/Eレシオは有価証券の評価差額金の減少等により3末比横ばい

億円	09	10				%	10/3E 増減
	12E	3E	6E	9E	12E		
【資産】							
流動資産	6,529	6,064	6,079	6,226	6,189	2.1	124
固定資産	17,954	17,972	17,754	17,752	17,936	△0.2	△35
資産合計	24,483	24,036	23,834	23,978	24,126	0.4	89
【負債および純資産】							
流動負債	6,784	6,393	6,661	6,615	6,995	9.4	602
固定負債	9,119	8,851	8,716	8,679	8,492	△4.0	△358
純資産	8,579	8,792	8,456	8,682	8,637	△1.8	△154
借入残高	11,774	11,383	11,280	11,170	11,111	△2.4	△272
D/Eレシオ	1.46	1.37	1.42	1.37	1.37		-

10/3Q キャッシュフローの状況

投資キャッシュフロー

営業キャッシュフロー



	09/12E	10/3E	10/6E	10/9E	10/12E
借入金	11,774 億円	11,383 億円	11,280 億円	11,170 億円	11,111 億円
現預金	226 億円	262 億円	236 億円	189 億円	197 億円
ネット借入金	11,547 億円	11,121 億円	11,043 億円	10,981 億円	10,913 億円

2010年度見通し

10年度 業績見通し概況

鹿島高炉不調影響、SUMCO持分法損益の後退、原料炭の豪州水害影響等の一時的要因に加え、販売環境の悪化もあり、営業利益は△250億円、経常利益は△400億円の下方修正

※見通しは全て概数

億円	09年度	上期	下期見通し		10/28見通し	10年度見通し	年度増減	10/28見通しとの増減	
			3Q	4Q見通し					
売上高	12,858	6,937	3,519	3,942	7,462	[15,000]	14,400	1,541	△600
営業利益	△9	347	49	152	202	[800]	550	559	△250
経常利益	△366	289	△20	31	10	[700]	300	666	△400
特別損益	△31	-	-	-	-	[-]	-	31	-
当期純利益	△497	348	0	△99	△98	[600]	250	747	△350
1株当り純利益(円)	△10.74	7.53	0.01	△2.14	△2.11	[12.94]	5.39	16.13	△7.55
EBITDA	1,199	958	368	522	892	[2,100]	1,850	650	△250
借入残高	11,383	11,170	11,111	11,100	11,100	[11,000]	11,100	△283	100
D/Eレシオ	1.37	1.37	1.37	1.39	1.39	[1.33]	1.39	0.02	0.06

10年度 販売量等の見通し

※住金小倉、住金直江津、住金鋼鉄和歌山を含む
 ※見通しは全て概数

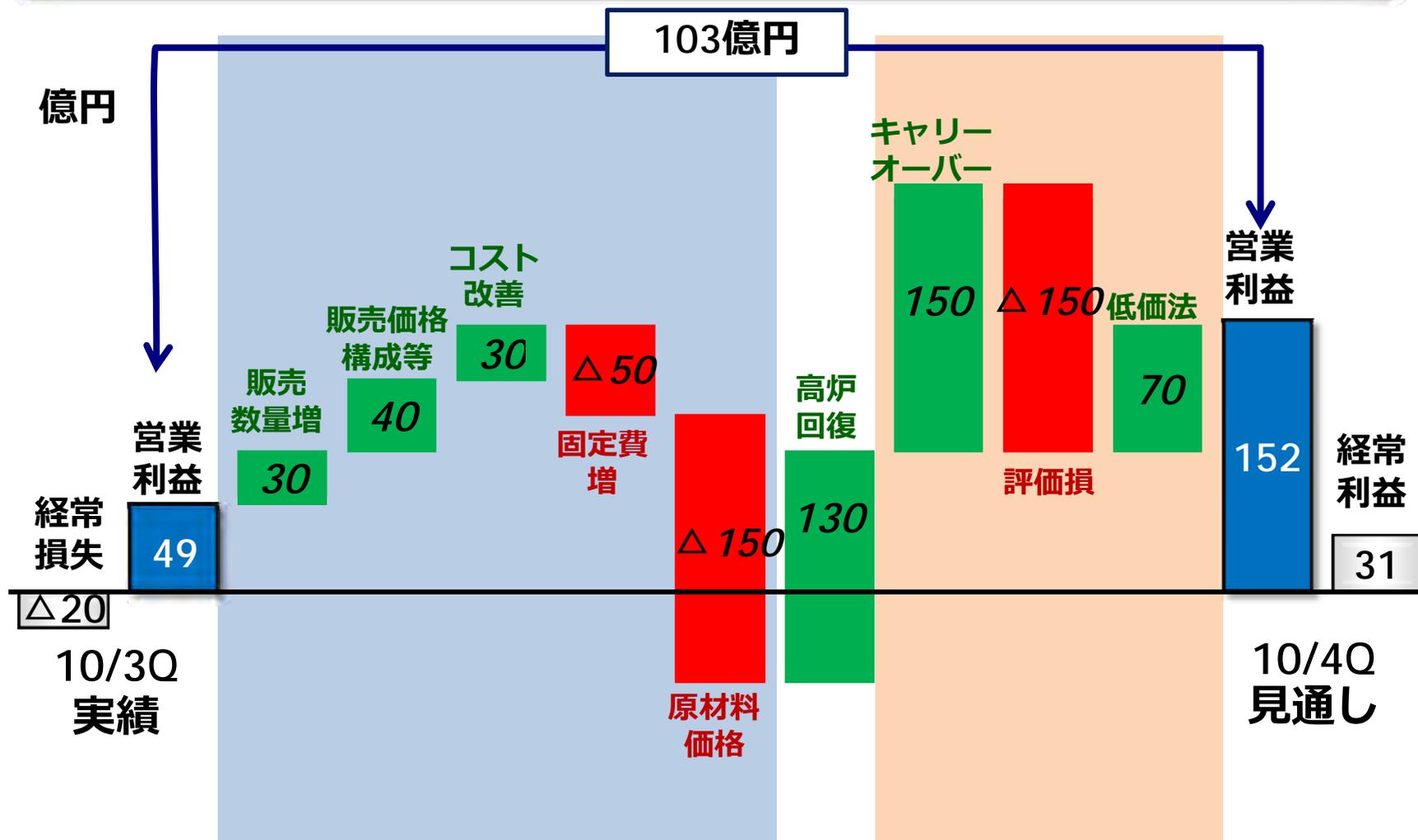
販売数量は、高炉不調影響等により前回見通し対比△57万トﾝ

	09年度		10年度				〔10/28見通し〕	10年度見通し	09年度増減	
	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q見通し				
為替レート (円/\$)	91	93	92	86	83	85	[87]	86	7円高	
粗鋼生産量 (万トﾝ)	332	1,165	335	343	300	372	[1,390]	1,350	185	
鋼材販売量 (万トﾝ)	326	1,089	304	291	290	322	[1,264]	1,207	118	
シームレスパイプ販売量(万トﾝ)	23	79	23	23	23	26	[95]	95	16	
鋼材平均単価 (千円/トﾝ)	国内	89.8	93.3	92.7	103.6	105.5	103	[100]	101	8
	輸出	78.2	82.4	82.3	86.4	86.3	92	[86]	87	5
	平均	84.3	88.0	87.7	95.6	95.9	98	[93]	94	6

億\$	09年度	10年度		
		上期	下期見通し	10年度見通し
受取	46	25	29	54
支払	△39	△26	△30	△56
外貨バランス	7	△1	△1	△2

営業利益増減（10/3Q→10/4Q見通し）

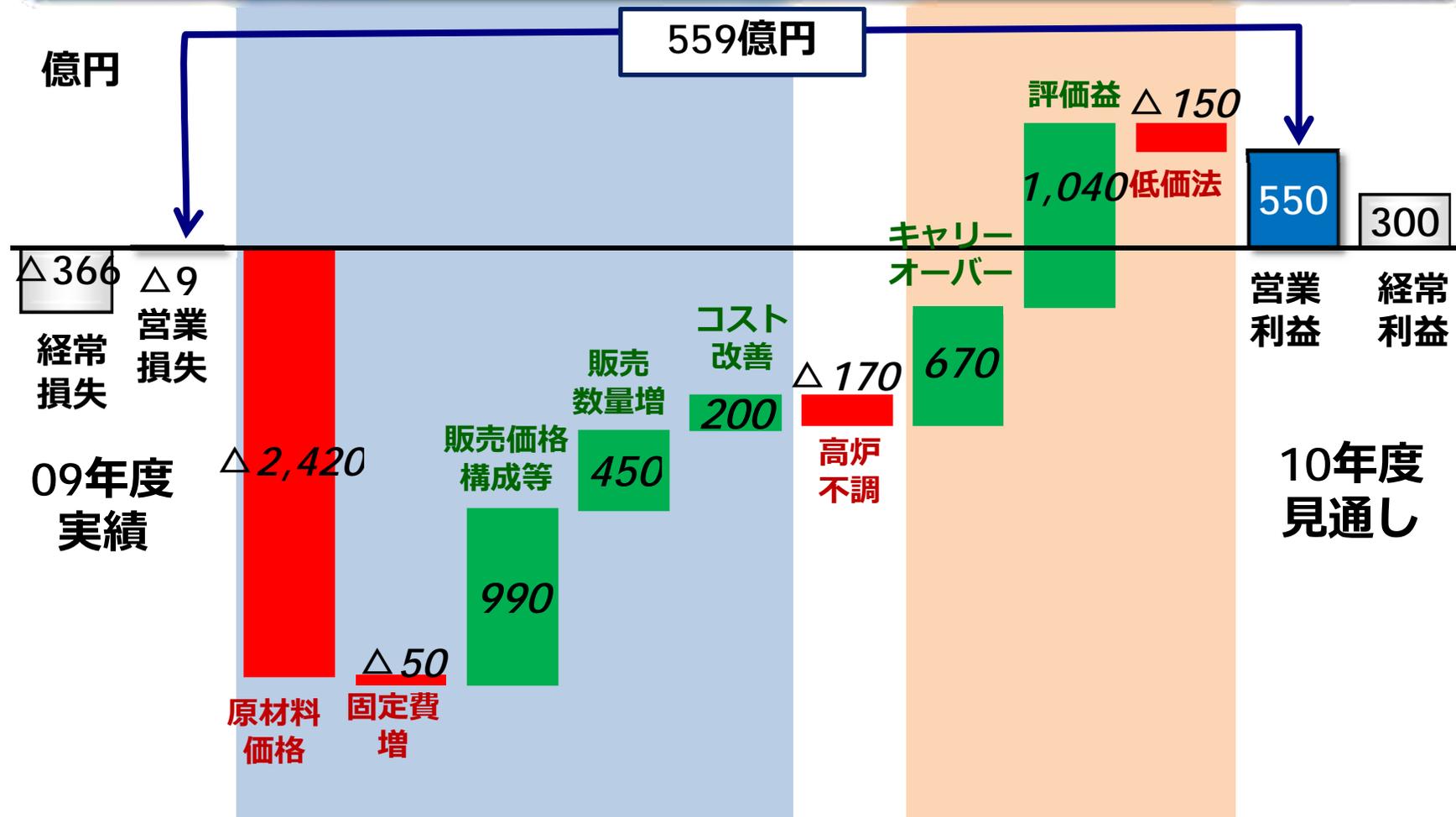
高炉操業の回復に加え、コスト改善等により営業利益は100億円程度の増加



●持分法損益 <10/3Q> △22億円 → <10/4Q見通し> △68億円

営業利益増減（09年度→10年度見通し）

大幅な原材料価格高騰を、販売価格・構成の改善、販売数量の回復、コスト改善等によりカバー。
 高炉不調の影響はあったが営業利益は約560億円の改善



●持分法損益 <09年度> △225億円 → <10年度見通し> △35億円

鋼材品種別販売状況



下期の見通し

鋼板・建材	薄板：高炉不調影響により、国内・輸出市況品主体に減産 厚板：建機・エネルギー向けは好調持続 建材：内需の低迷継続により減産強化。市況は底入れの兆し
鋼管	シームレス：円高の影響はあるが、販売価格重視の受注方針を継続 大径管：高炉不調を受け輸出プロジェクト品の受注調整実施
スラブ	高炉不調を受け、アライアンス先に数量調整をご依頼
特殊鋼	自動車生産台数見通しの下方修正により、前回見通しからは微減
交通産機品他	鉄道車両品：需要は堅調に推移 クランクシャフト：KDパーツが好調に推移 チタン：在庫調整の進展に伴い、販売数量は回復基調

シームレスパイプ販売の見通し

シームレスパイプ10年度販売量見通し 95万トン程度

OCTG 長期契約	<ul style="list-style-type: none"> 需要回復に伴い、受注は増加傾向
OCTG SPOT品	<ul style="list-style-type: none"> リグカウントの増加に伴いマーケットは回復基調 ローエンドでは中国余剰能力問題で厳しい状況が続く
ライン パイプ	<ul style="list-style-type: none"> 店売り、プロジェクト向けとも数量は回復傾向
特殊管	<ul style="list-style-type: none"> 原子力向けは高水準継続、USCボイラの回復は11年度以降
自動車・ 建機他	<ul style="list-style-type: none"> 自動車はピーク時の約8割、建機は約7割の水準まで回復

リグカウント の状況	08年 平均	09年 平均	最近のピーク		最近のボトム		直近	
米国	1,879	1,089	<100>	(08/9) 2,031	<43>	(09/6) 876	<85>	(11/1/28) 1,732
深井戸 (≥15,000ft)	283	249	<100>	(10/5) 381	<55>	(09/6) 211	<105>	(10/12) 399
北米・露・中 を除く世界	1,079	997	<100>	(08/9) 1,108	<85>	(09/8) 947	<101>	(10/12) 1,118

出所: Baker Hughes, Smith international

セグメント・カンパニー別売上高等の状況

セグメント・カンパニー別売上高

※見通しは全て概数

億円	09年度					4Q 見通し	〔10/28 見通し〕	10年度 見通し	年度 増減
		1Q	2Q	3Q					
鋼板・建材	4,985	1,356	1,437	1,412	1,600	[6,050]	5,800	815	
鋼管	4,729	1,220	1,214	1,273	1,400	[5,400]	5,100	371	
交通産機品	866	234	250	232	270	[1,000]	1,000	134	
住友金属小倉	1,016	304	367	374	400	[1,450]	1,450	434	
住友金属直江津 他	460	130	129	122	160	[550]	550	90	
鉄鋼セグメント計	12,058	3,246	3,398	3,415	3,830	[14,450]	13,900	1,842	
その他	799	169	122	104	100	[550]	500	△299	
売上高計	12,858	3,416	3,521	3,519	3,930	[15,000]	14,400	1,542	

(参考) 鉄鋼セグメント主要カンパニー営業利益 (概数)

鋼板・建材	△40	60	110	△60	60	[390]	170	210	
鋼管	鋼管	160	0	40	40	70	[130]	150	△10
	スラブ	△200	20	△30	10	△60	[△40]	△60	140
住友金属小倉	△70	0	20	20	20	[70]	60	130	

鉄鋼セグメント計	△76	126	184	34	135	[730]	480	556
その他	66	16	21	15	15	[70]	70	4
営業利益計	△9	142	204	49	152	[800]	550	559

利益配分に関する基本方針

- 「質」と「規模」のバランスの取れた持続的成長を通じて企業価値を最大化
- 事業が生み出すキャッシュは、企業価値を高める投資に充当
- 投資戦略は以下を基準に実施し、その成果を株主の皆様に還元
 - ➡ 差別化の加速に資する投資であること
 - ➡ 資本コストを上回る便益をあげて企業価値向上に貢献すること
- 配当は安定配当を基本とする

財務体質運営指針

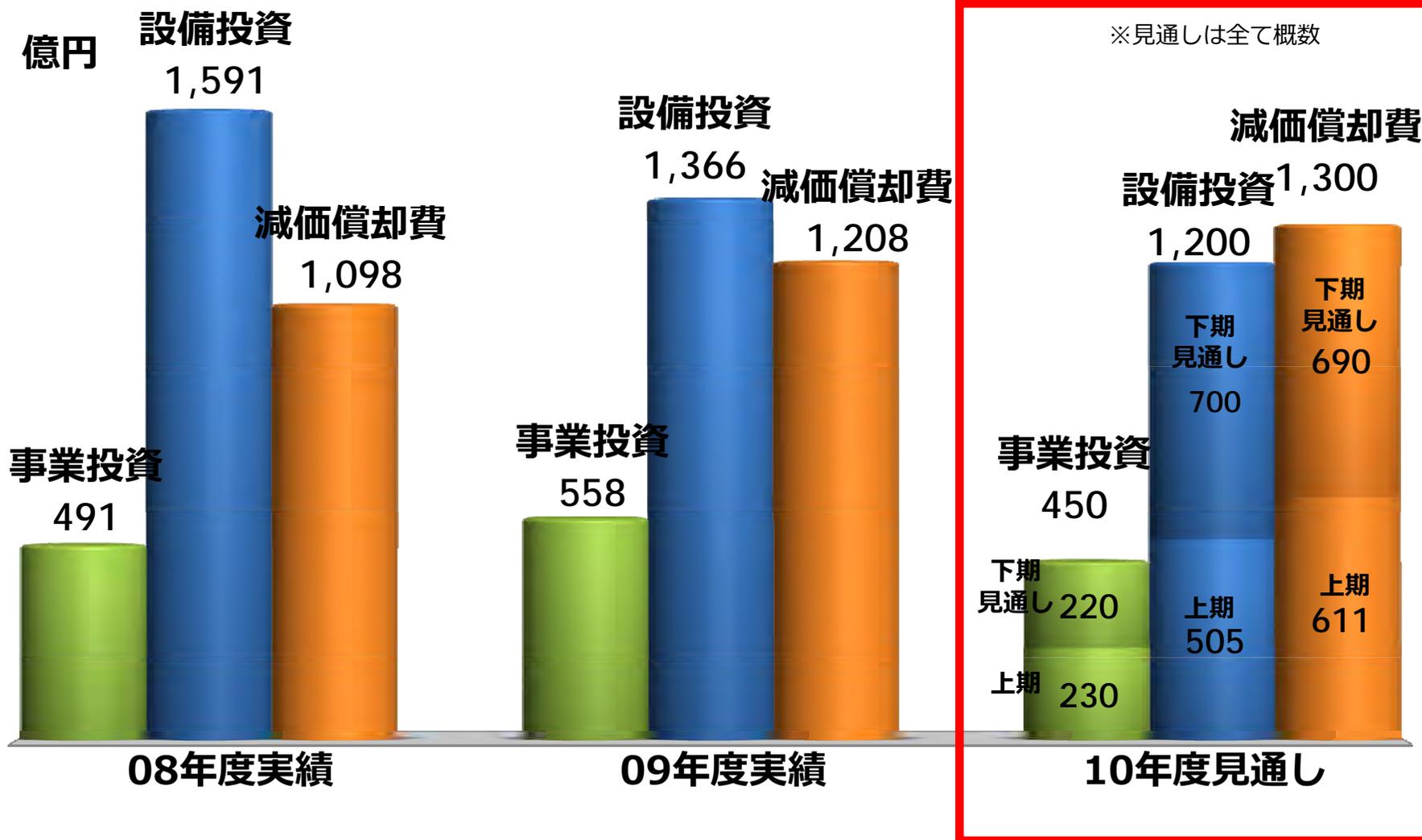
- D/Eレシオで 1.0未満を目標として運営

当期（11/3月期）配当予想

- 5円/株（中間配当 2.5円/株, 期末配当 2.5円/株）

事業投資・設備投資・減価償却費の見通し

設備投資額は工事ベース
事業投資額は支払いベース



主要設備投資・事業投資の進捗

稼動予定年月で記載		投資額	FY09	FY10	FY11	FY12	FY13	FY14
設備投資								
鋼管	和歌山上工程更新 新第1高炉+環境対応強化等 新第2高炉+CC増強等	1,600 億円 1,150 億円	→ 09/7					
	超高強度ラインパイプ増産	100 億円			→ 11/3			
	原子力発電用SG管増産	140 億円					→ 13/4	
その他	住金小倉製鋼プロセス革新	270 億円			→ 10/10			
	総合技術研究所に1-7ル機能強化	100 億円					→ 12/5	
事業投資 (*JVの場合の投資額はJV合計額 []は当社出資額)								
鋼板建材	ベトナム薄板JV (CSVC)	*1,150 億円					→ 12年	
	インドブーシャン社 オリッサ PJ " 西ベンガル PJ	技術援助 FS中						→
	タイ カナドイル厚板ミル	[50百万\$]					→ 13年	
鋼管	ブラジル高炉一貫シームレス(VSB)	*2,000 億円					→ 10/12 初製管	
							→ 11/上期	
交通産機	インドクランクシャフト合併	*10 億円			● 10/4			

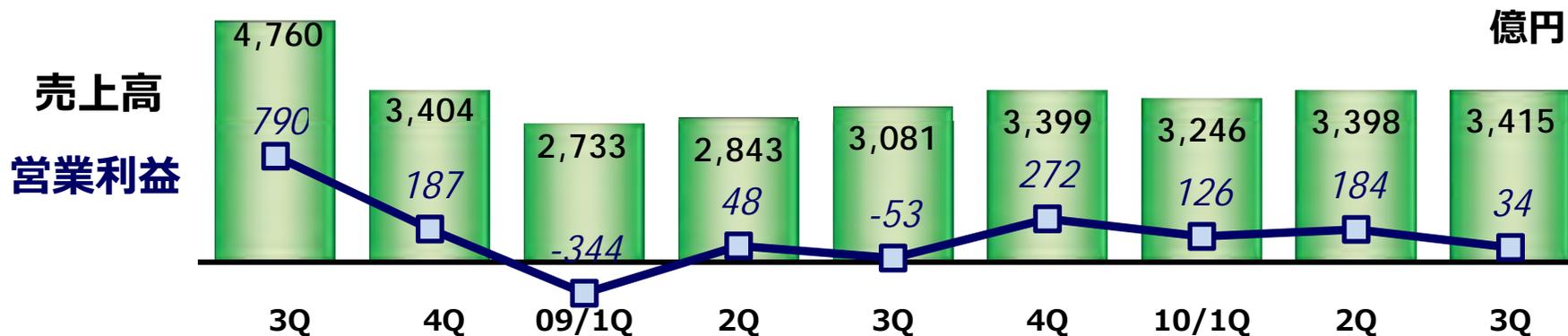
參考資料

セグメント別売上高・営業利益 四半期別推移

億円	08/3Q	4Q	09/1Q	2Q	3Q	4Q	10/1Q	2Q	3Q
鉄鋼	4,760	3,404	2,733	2,843	3,081	3,399	3,246	3,398	3,415
エンジニアリング	23	41							
IT/デバイス	95	62							
その他	132	110	171	238	178	211	169	122	104
売上高	5,012	3,618	2,904	3,082	3,260	3,610	3,416	3,521	3,519
鉄鋼	790	187	-344	48	-53	272	126	184	34
エンジニアリング	0	2							
IT/デバイス	-9	-34							
その他	9	7	-1	14	22	29	16	20	15
営業利益	790	162	-345	63	-31	302	142	204	49

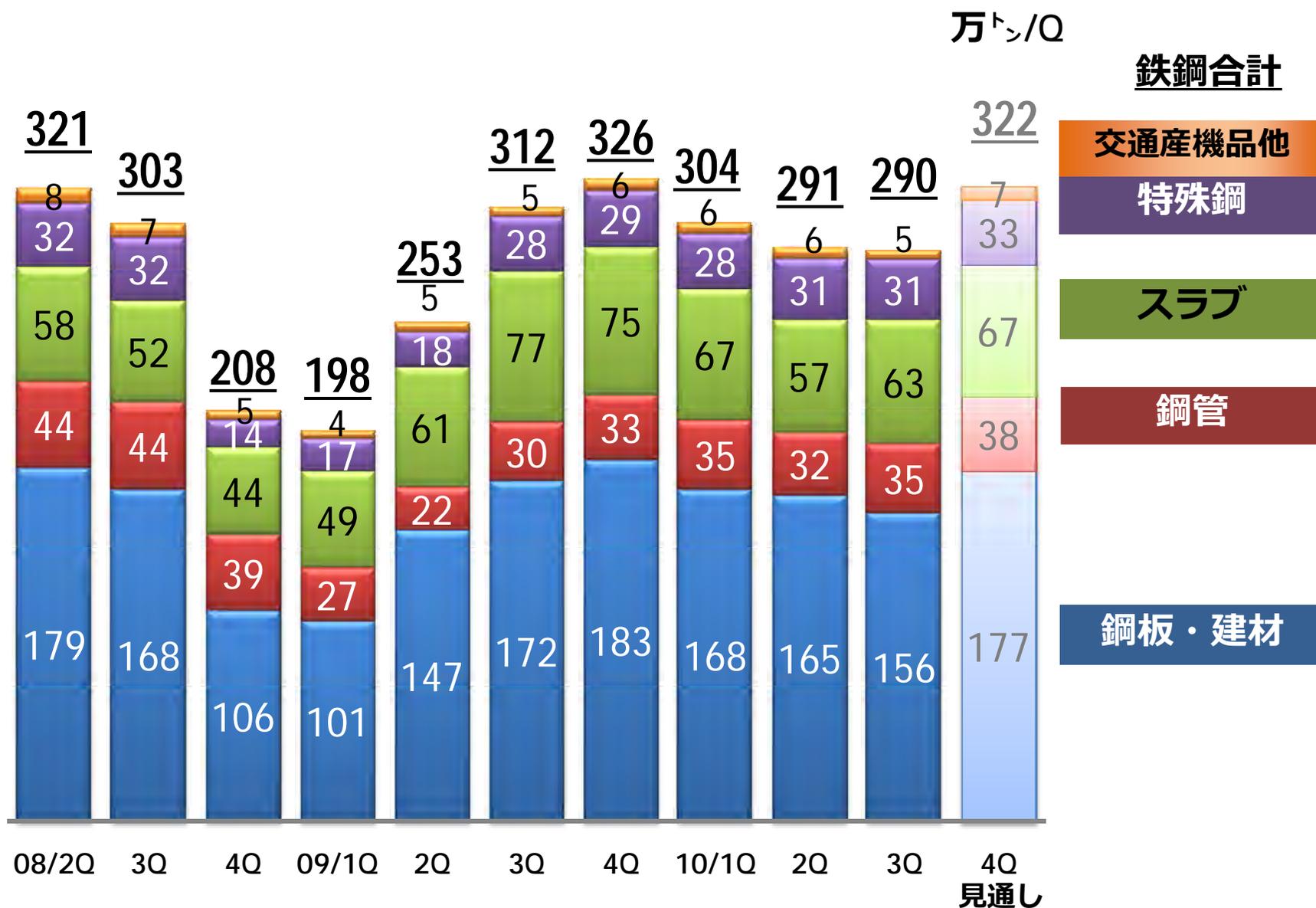
鉄鋼セグメント

営業利益率 17% 5% -13% 2% -2% 8% 4% 5% 1%



鋼材品種別販売量推移

※見通しは全て概数

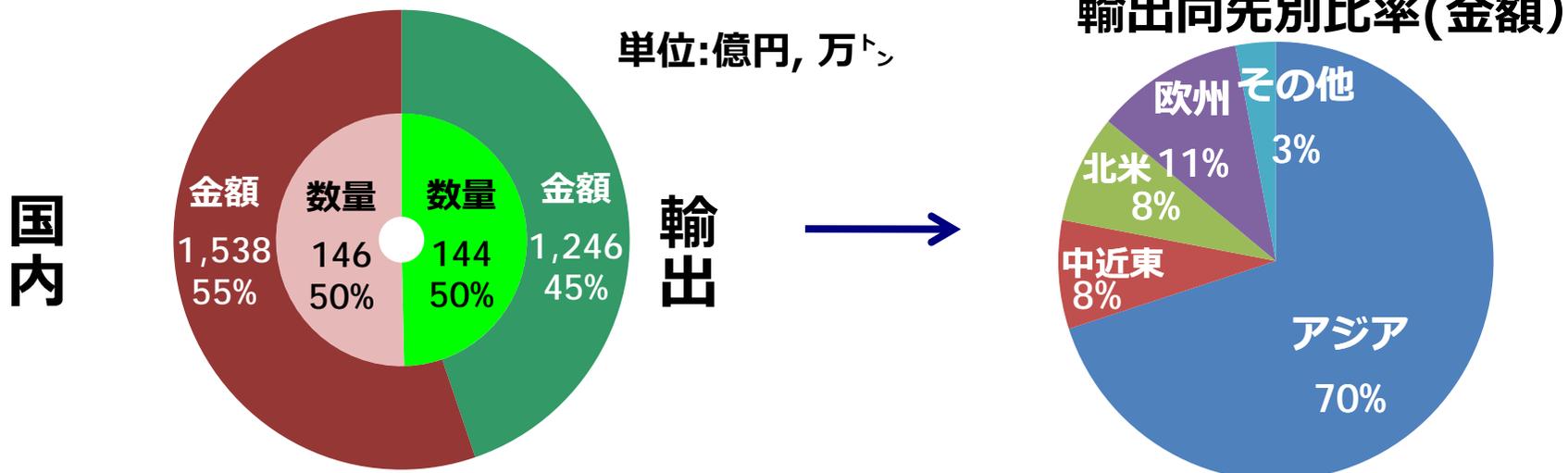


10年度 一過性要因の見通し

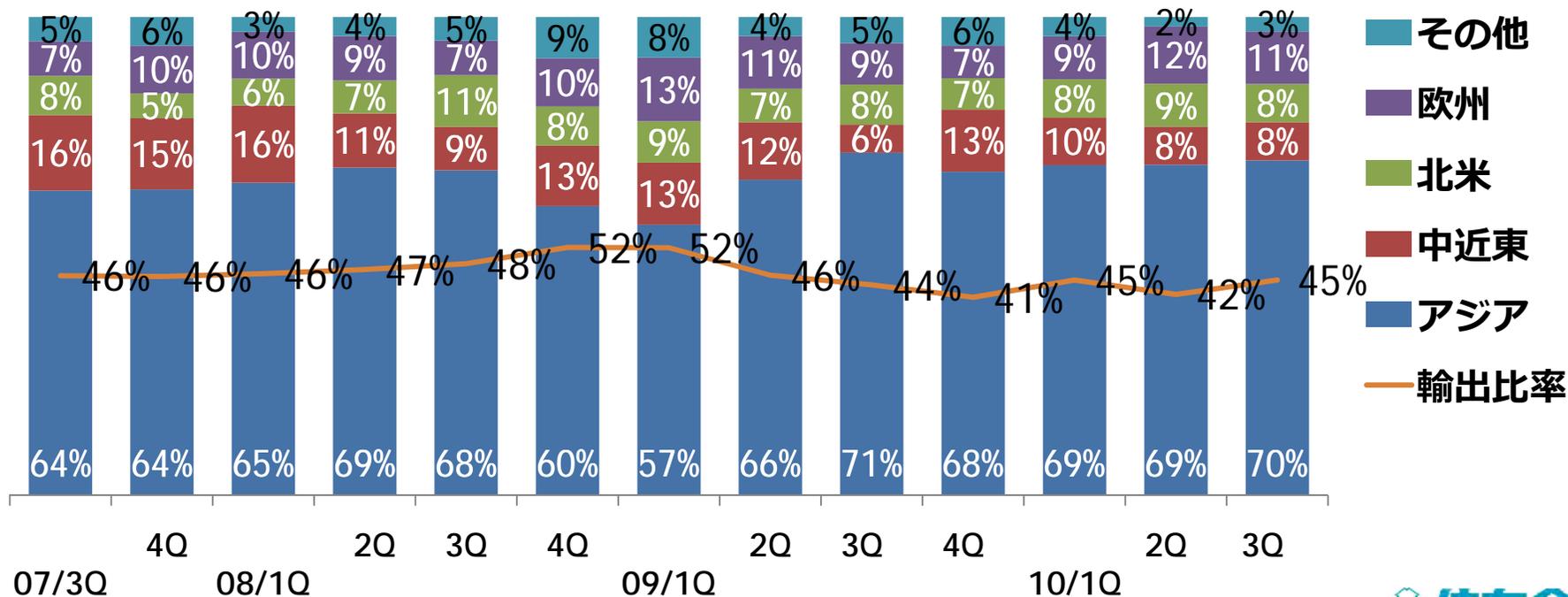
億円						09 年度					10年度 見通し	年度 増減
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q		2Q	3Q	4Q 見通し			
キャリー オーバー	△290	△80	△50	0	△420	190	90	△90	60	250	670	
評価損益	△530	△150	△160	△40	△880	160	40	60	△10	250		
原価差額 調整計算	440	△110	△160	△90	80	△90	20	70	△10	△10		
評価損益計	△90	△260	△320	△130	△800	70	60	130	△20	240	1,040	
期首戻し	200	450	270	160	200	50	50	40	70	50		
期末適用	△450	△270	△160	△50	△50	△50	△40	△70	△40	△40		
棚卸簿価 (低価法)	△250	180	110	110	150	0	10	△40	30	0	△150	
一過性要因計 (概数)	△630	△160	△260	△20	△1,070	260	160	0	70	490	1,560	

*全て10億円単位概数

10/3Q 鋼材 国内・輸出別売上高



鋼材輸出向先別比率(金額) の推移



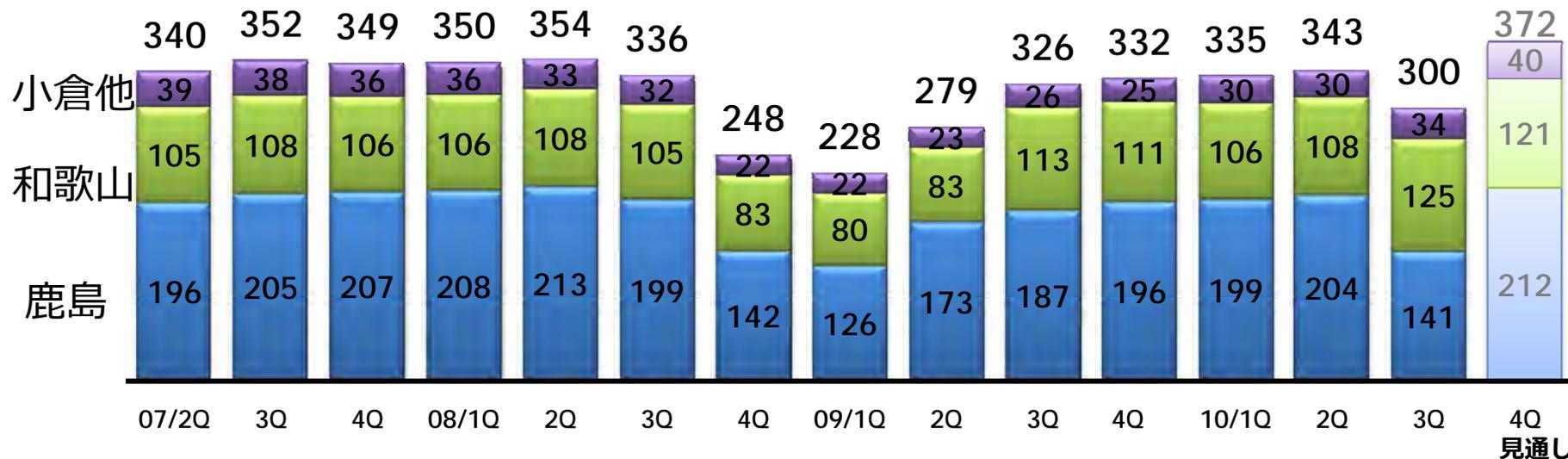
参考数値 (1)

※見通しは全て概数

28

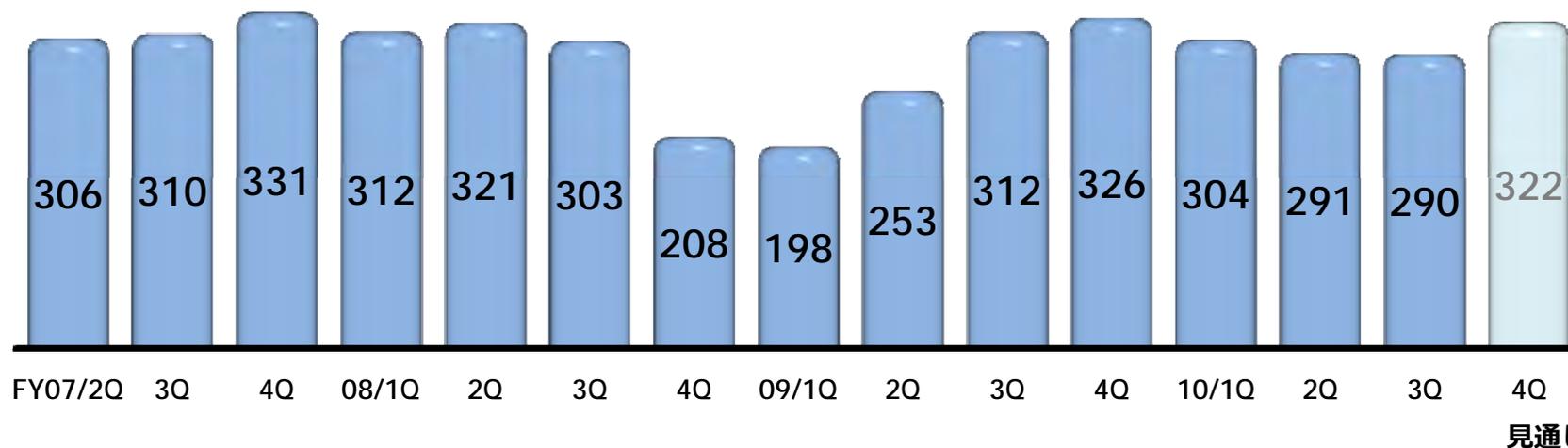
当社粗鋼生産量

万ト/Ｑ



当社鋼材販売量

万ト/Ｑ

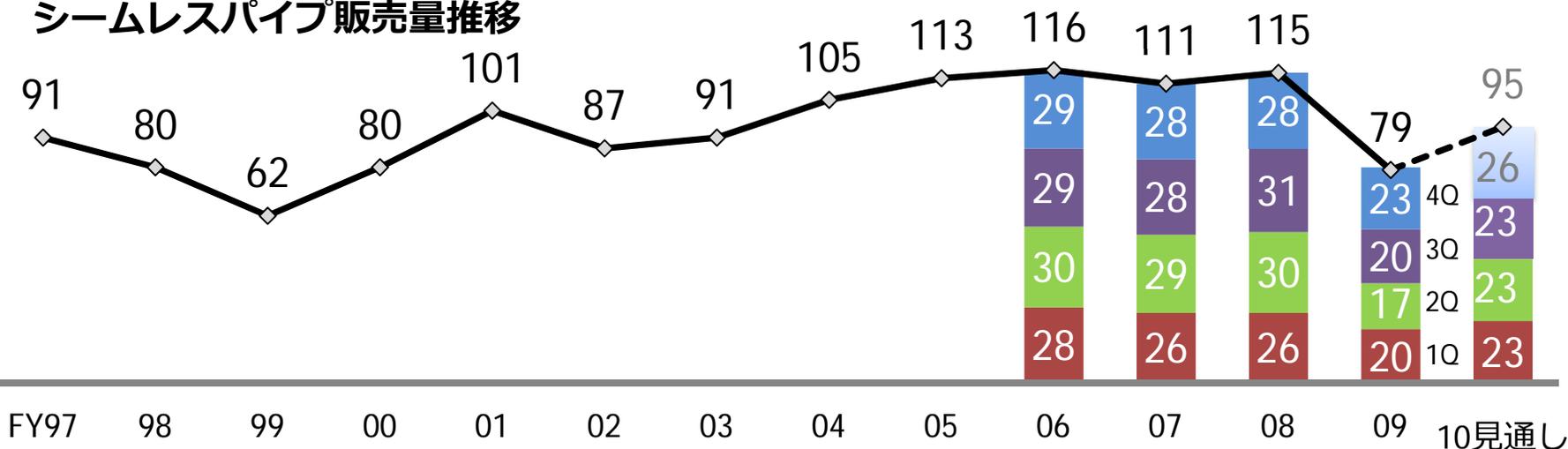


参考数値 (2)

シームレスパイプ販売量推移

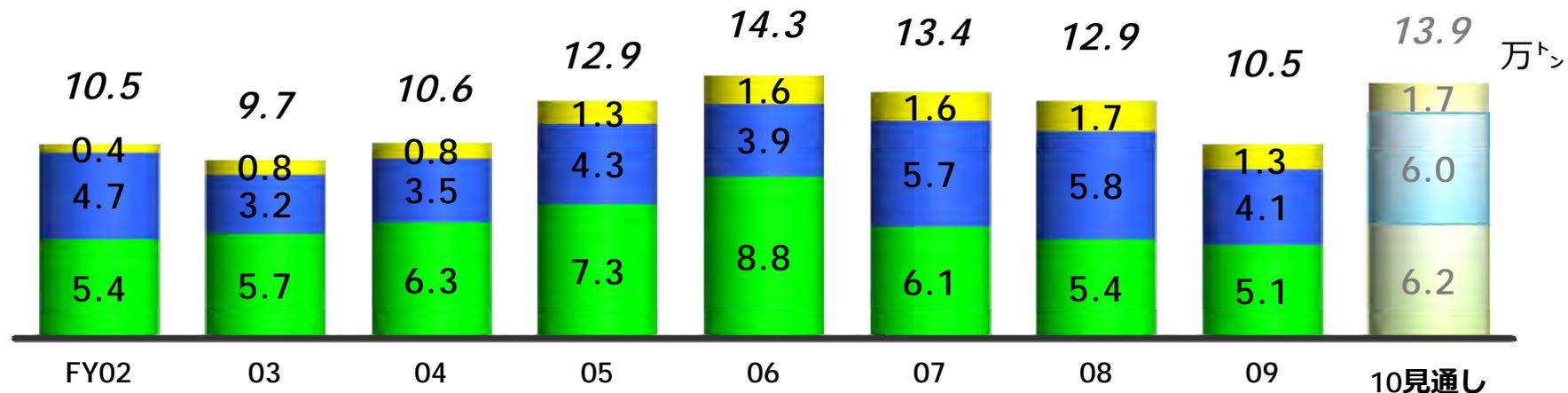
※見通しは全て概数

万トン



シームレスパイプ スーパーハイエンド品 販売量推移

■ 高合金OCTG ■ 耐サワー鋼 ■ 13CR

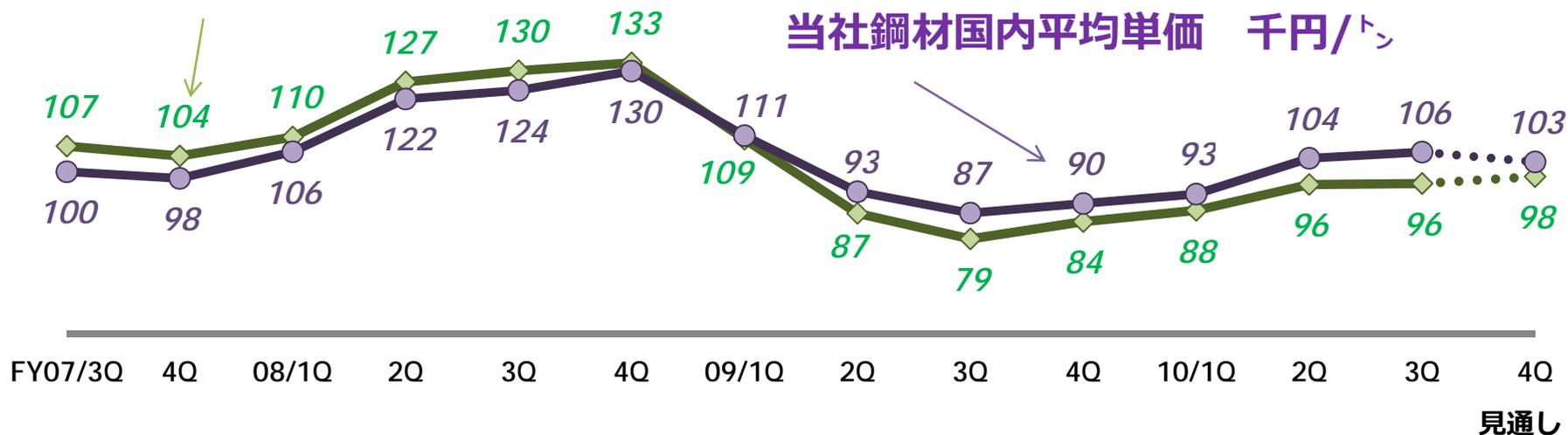


参考数値 (3)

※見通しは全て概数

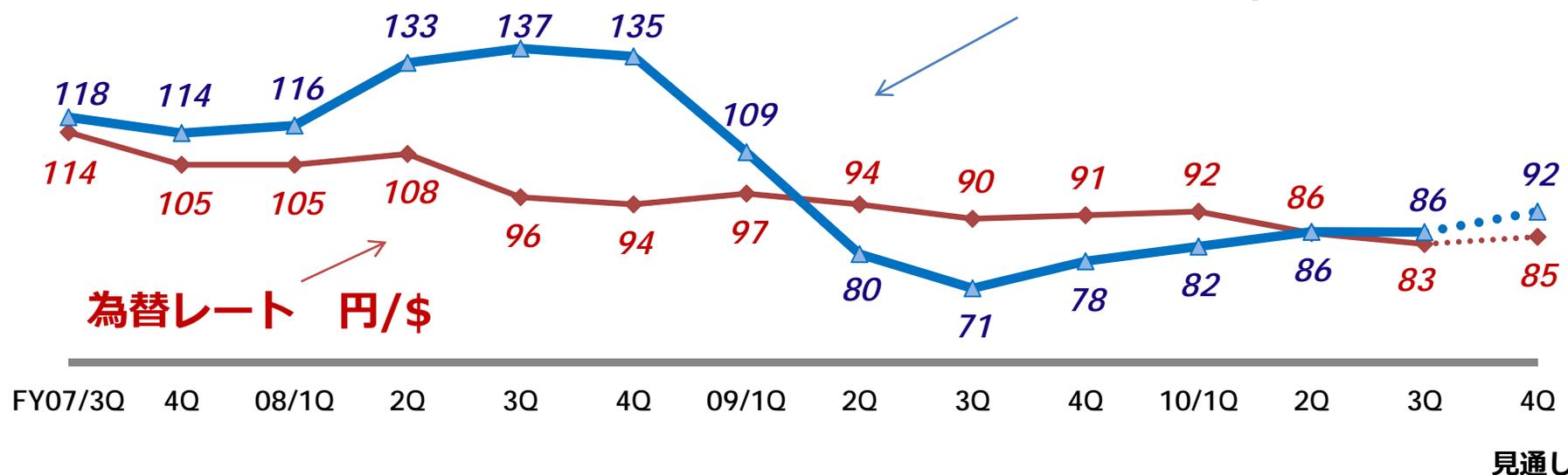
当社鋼材全平均単価 千円/トン

当社鋼材国内平均単価 千円/トン



当社鋼材輸出平均単価 千円/トン

為替レート 円/\$

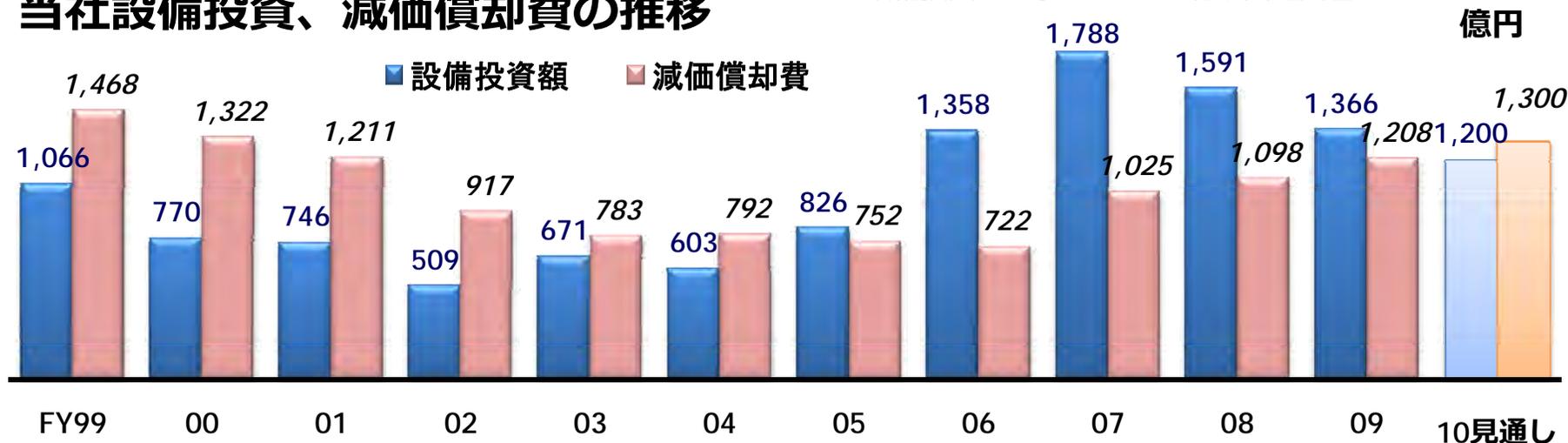


参考数値 (4)

※見通しは全て概数

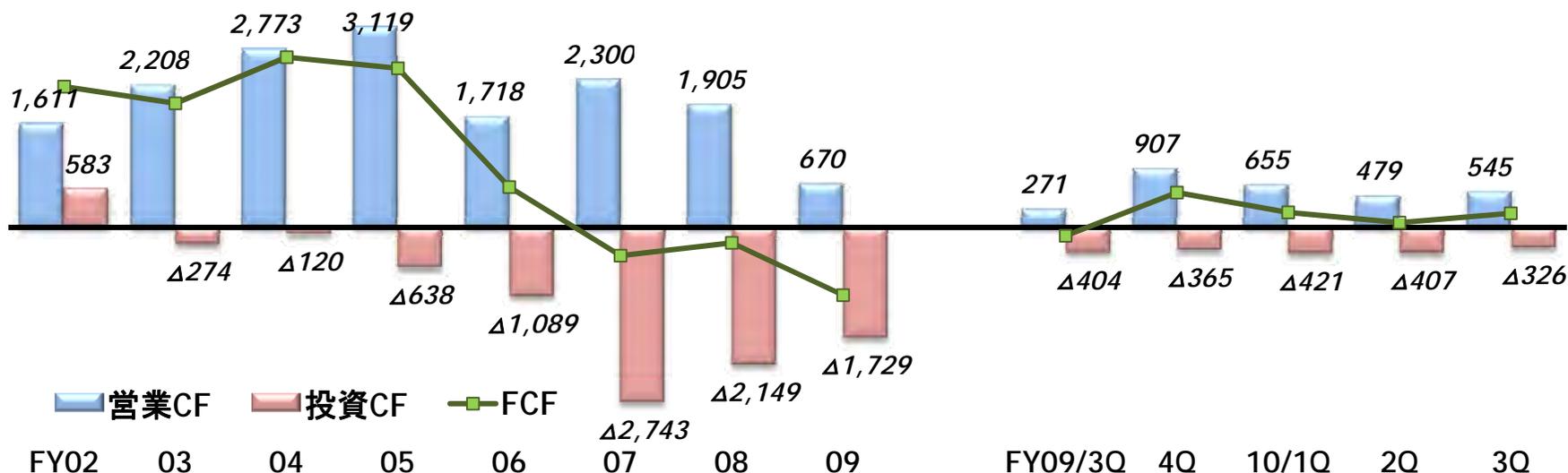
当社設備投資、減価償却費の推移

※設備投資は工事ベース *有形固定資産のみ



フリーキャッシュフローの推移

2,194 1,934 2,653 2,480 628 Δ442 Δ243 Δ1,059 Δ132 542 233 72 218 億円



「質重視」による企業価値の
持続的向上を目指す



ステークホルダーの皆様から
信頼される会社へ